



横浜市立桂小学校

桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

7月号

令和8年6月30日

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校HPのQRコードはこちら→



「国際平和スピーチコンテスト」から

校長 田島 馨

6月23日(火)に、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」青葉区審査会が行われました。これは、横浜市内の小中学生が「国際平和のために自分にできること」というテーマで考えたことを、3分間のスピーチとして主張するものです。市の本選に先立ち、青葉区内30小学校それぞれの代表が、青葉公会堂に集まりました。本校では、6年生全員が5月より取り組んでいましたが、学校代表の児童が、公会堂のステージで堂々とスピーチを披露しました。以下に紹介いたします。

みなさんは、部屋の明かりや蛇口から出てくるきれいな水、さらにスマホやタブレットでつながるインターネットに、何か感じたことがあるでしょうか。「あたりまえのこと」だから、何も感じないのではないのでしょうか。私もそうでした。しかし、どうでしょうか。世界中から電気やきれいな水、さらにはインターネットが消えてしまったら、どうなるでしょうか。私はとても不安になりました。そして、この「あたりまえ」の裏側には、どのような仕組みがあるのだろうかという疑問も浮かんできました。

そこで私は、この「あたりまえ」の生活を支える仕組みについて調べてみました。すると、これはSDGs目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に深く結び付いていました。私は最初にこれを耳にしたとき、私たち小学生には身近ではないことだと勘違いしていました。しかし、水道や道路といった、私たち小学生にとってとても身近な目標であることが分かりました。みなさんは、このことを知っているでしょうか。実は今、横浜市にも古い水道管や道路があり、大人の方々が毎日、目に見えないところで点検や修理をして、私たちの安全を守ってくださっています。このことから私は、SDGsの「誰一人取り残さない」という約束は、こうした目立たない支えがあってこそ成り立っているのだということを詳しく知りました。

そこで私は、みんなのインフラを未来につなぐために、「あたりまえ」と思って公共交通機関や街の設備を使うのではなく、一人ひとりが「ありがたうと思う心を持ち、使う責任」を持つことを提案します。一つ目は、バスを降りる際に「ありがたうございました」と心を込めて運転士さんに伝えることです。私も実際にこの行動を行ったところ、運転士さんの表情が明るくなり、「ありがたうございました」と言った私自身も、心が明るくなりました。二つ目は、公共の設備を優しく使うことです。小学三年生の頃、公園で壊れている蛇口を見たとき、その近くに「蛇口を優しく使おう」と書かれているものが目に入りました。つまり、蛇口を優しく使えば、まだまだ使い続けることができたということです。そして、そこから三年が経った今、その蛇口はきれいで壊れていませんでした。私はこのことから、一人ひとりが公共の設備を優しく使うことで、設備が安全に保たれ、「感謝の気持ち」を伝えることができるのだと知りました。

私の大好きな横浜は、日本で最初にガス灯や近代的な水道が作られた、「日本のインフラを生み出した親」といえる存在です。これからも横浜に住み続けていく私たちの責任とは、何でしょうか。ただ新しい便利な技術を使うだけではありません。目に見えない「基盤」に気づき、感謝し、とても便利な「インフラ」を次へとつないでいく責任をしっかりと持つことです。まず、今日家に帰ったら、部屋の明かりや蛇口から出るきれいな水に「ありがたう」と思うことから始めましょう。みんなが「あたりまえ」を大切にすることを心がけて、SDGsの目指す「世界で一番住み続けられる街・横浜」をつくっていくことにつながると、私は信じています。

「あたりまえ」に身の回りに存在している水道や電気、インターネット。それらを支える多くの人々がいて、平和で暮らしやすい生活が維持されていることに改めて気付かせてくれる素晴らしいスピーチであったと思います。それらの人々に感謝の気持ちをもち、自分にできることー感謝の気持ちを行動に表すことーを子どもたちとともに行っていきたいと思います。